

# 知的障害特別支援学校における 場面緘黙の生徒を対象とした自立活動の指導

生徒の願いに沿った設計及び段階的な指導の効果の検討

○小林敬和 仲矢明孝  
（岡山大学教育学部附属特別支援学校）（岡山大学）  
KEY WORDS: 場面緘黙 自立活動 コミュニケーション

## I. 目的

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(2018)では、自立活動における中心的な課題を導き出す段階において、本人が実現したい願いの視点が重要視されている。また、岡山大学教育学部附属特別支援学校(2017)は、教師が感じている困難ではなく、子ども本人の抱える困難を重要視した設計・指導を行い、その成果を報告している。本研究では、知的障害のある場面緘黙の生徒に対して、本人の実現したい願いに沿った自立活動の指導を行った3年間の結果を整理・分析することにより、知的障害のある場面緘黙の生徒に対する指導の在り方について検討する。

## II. 方法

**1. 対象:** 知的障害特別支援学校高等部男子生徒を対象とする。本生徒は、小学4年以降、家族以外の人と言葉でやりとりをすることが困難となった。高等部入学時は、日常生活における会話の内容は理解できていたが、言葉で表現することはできなかった。教師が提示した選択肢のいずれかを指差したり、教師の促しを受けて書字したりして伝えていたが、困ったときや要求場面などでは自分から相手に伝えることができず、黙ってその場に留まっていることが多かった。なお、対象生徒の保護者には、研究の目的や方法を説明し、研究参加への同意を得た。

**2. 指導期間:** X年4月～X+3年3月

**3. 設計:** 他学年の教師も含め、高等部8名の教師が収集した情報に基づいて話し合い、本人の願いを重視した、指導目標及び具体的な指導内容を設定した(表)。

## III. 結果と考察

8名の教師による指導の記録等の情報を基に、3年間の指導結果の概要を表に示す。

**1. 第1学年:** 教師や友達に書字やタブレット端末を使って自分の意図を伝える姿が見られるようになった。友達や教師とのやりとり自体を楽しむことができ、自分の意図が伝わることの喜びを実感すると共に、伝えることへの抵抗感が減少していったと考えられる。

**2. 第2学年:** 自ら「話す練習をしたい」と言って教師と相談しながら話す内容や場面、声の大きさなどを決め、練習に取り組んだ。その結果、友達の質問への返答や、現場実習での報告や依頼を、簡単な言葉で伝える姿が見られるようになった。伝える相手やタイミングが分かると共に、発音の明瞭さや声の大きさが改善されたことにより、実際に伝わる成功経験を積み、伝えることへの自信が高まったと考えられる。

**3. 第3学年:** 伝わることの喜びと共に、伝えることの必要性を実感し、相手に伝わる声の大きさで、自分から伝えようとする姿が見られるようになり、友達や教師と言葉でスムーズにやりとりをすることができるようになった。高等部3年で、将来の生活が現実的なものとなり、就職したいという強い希望をもっていた本生徒が、伝えることの必要性を実感したことが大きな要因と考えられる。

## V. まとめ

本生徒は、話さないことで嫌な思いをしたくない、自分の気持ちや考えを言葉で伝えたい、将来就労してバイクを買うために話せるようになりたいという強い願いをもっていた。それらの願いを踏まえて目標を設定するとともに、本生徒と相談しながら学習内容を選定し、段階的な指導を3年間行ってきた。その過程において、困難さの改善・克服に向けた主体的な取り組みにより、小学4年生以降、家族以外の人と言葉でやりとりできなかった本生徒が、言葉を使ったやりとりをし、満足感、達成感を味わう姿が見られるようになった。これらの本生徒の変容から、指導にあたっては、特定の相手と何らかの方法でやりとりをし、その良さや喜びを実感すること、表現するための強い動機づけの存在、場面やタイミング、相手や声の大きさ等の会話に必要な内容の一つ一つ確認して指導すること、さらに実行による成功体験を味わえるようにすることの重要性が示唆された。

(KOBAYASHI Hirokazu) (NAKAYA Akitaka)

表. 指導目標・内容と指導の結果

時 期	第 1 学年				第 2 学年				第 3 学年			
段 階	伝えあう喜びを味わう		伝え方を知る		自分から伝える		言葉で伝える		言葉でスムーズに応答する		生活場面で自ら伝える	
本 人 の 思 い	トイレに行きたいことを伝えられず、失敗することや失敗したことを友達に指摘されることが嫌だ。		話さないことを友達に馬鹿にされることが嫌だ。		自分から伝えられるようになりたい。		友達と大きな声で話せるようになりたい。		就職してバイクを買うために話せるようになりたい。			
指 導 目 標	支援ツールを活用して、できごとや気持ち等を伝えることができる。		書字やタブレット端末で、他の教師やクラスの友達に自分の意思を伝えることができる。		特定の相手の肩をたたいて、自分から要求することができる。		教師や友達の質問に簡単な言葉で返答したり、要求したりすることができる。		質問に対してスムーズに返答することができる。		伝えることの必要性に気づき、自分から伝えることができる。	
具 体 的 な 指 導 内 容	友達や教師と掲示板でやりとりをする。	教師と交換日記をし、出来事や気持ちを伝える。	タブレット端末の SNS アプリを使い、教師とやりとりをする。	場面ごとに、伝えやすい方法を教師と相談して決めて取り組む。	授業の中で書字やタブレット端末を使って意思を伝える。	あらかじめ伝える場面や相手、方法を教師と相談して決める。	伝えるタイミングを教師と相談し、手順書を手掛かりに伝える。	教師や友達とクイズのやりとりをして楽しむ。	伝えたい言葉を教師と相談して決め、教師と一緒に練習する。	大きな声で話す練習をし、相手に伝わる声の大きさで話す。	教師が提示した返答例の中から自分で選んで返答する。	自分から伝えた方が良い場面と伝える言葉を知り、実際の生活の場面で話して伝える。
結 果	書字で質問に答えたり、考えを伝えたりし、自分の考えに周りの人が興味を示す経験をした。	学校の出来事や休日にしたことや嫌だったことを書字で伝えることができた。	今やりたいこと、困ったことや嫌だったことを伝えることができた。	教師と相談して伝える方法を決め、活用することができた。	クラスの友達に対して書字やタブレット端末を使って意思を伝えることができた。	場面や授業ごとに伝える相手や方法を確かめることができた。	タイミングが分かって、自分から言葉や書字で伝える場面が多く見られた。	友達の質問に簡単な言葉で返答することができた。	現場実習で使う言葉を練習し、現場実習中に言葉で伝えることができた。	発音が少し明確になり、声量が増え、相手に伝わるように話すことができた。	質問に円滑に答えたり、初対面の人に言葉で伝えたりすることができた。	友達の落としたハンカチを自分から拾って伝えたり、友達に正しい答えを伝えたりすることができた。自分から「水筒をとってきてもいいですか」と伝えることができた。